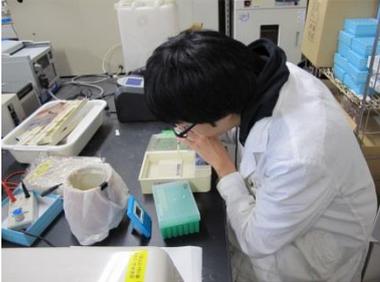
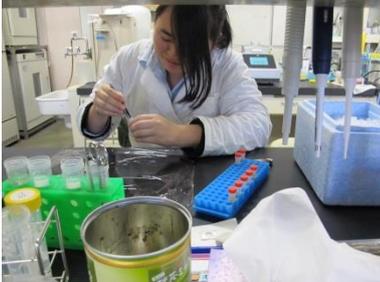


平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況①

団体名	SUNJOY 南小畔川	実施日	平成 27 年 7 月～平成 27 年 8 月
代表者	安原 昭司	活動場所	川越市（南小畔川）
タイトル	平成 27 年度 SUNJOY 南小畔川「川あそび」イベント		
活動目的	災害時に必要になる河川の位置や水質、および生息する生物の情報を地域住民の方へ広く周知するため。		
活動内容	<p>災害時に必ず必要とされる河川が、地域のどの場所に位置しており、土手のどの箇所から川岸に降りて行けるのかを確認すると共に、川の水質や生息生物の情報を実際に知ってもらうため、主に子供を対象とした川あそび活動を実施した。また、それに先立っての会場整備および後片付け作業を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>会場整備作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備後の会場</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>当日の川あそびの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図鑑を参照しながらの学習</p> </div> </div>		
活動の成果	地域内の幼稚園、保育園、小学校への周知および会員の一声運動により、メンバーを含めて合計 43 名の参加者が集まった。参加した子供たちは実に生き生きとした様子で川あそびを楽しんだ。実際に網で捕獲した水中生物の名称や特色を図鑑で照らし合わせながら学習した。		
今後の改善点	事前 PR を更に強化するため、「武州・入間プロジェクト」のぼり旗を実施日の 2、3 週間前から借りたい。暑さがやわらぐ夕方以降の小規模花火大会を実施できないかという声があった。		
最終助成決定額	86,604 円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況②

団体名	城西大学	実施日	平成 27 年 7 月～平成 28 年 3 月
代表者	森本 雍憲	活動場所	川越市、入間市、日高市、鳩山町、東松山市、坂戸市、飯能市（小畔川、入間川、越辺川、都幾川、高麗川）
タイトル	入間川流域における外来淡水エビの侵入調査		
活動目的	入間川流域におけるカワリヌマエビ属の侵入状況を知るため。		
活動内容	<p>城西大学は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、社会に必要とされる人材を育成しつつ発展してきた。近年では、社会科学系学部を中心に、大学周辺の休耕地を活用し、大学・地域間連携の構築と教育プログラムを遂行している。担当者の研究室では、遺伝子を解析することにより保全すべき環境の実態調査を行っている。その中で、大学の脇を流れる高麗川には、在来種であるヌカエビ属が 80%、外来種であるカワリヌマエビ属が 20% 生息することが分かったため、範囲を拡大して、入間川流域におけるカワリヌマエビ属の侵入状況の調査を遺伝子解析により行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>淡水エビの採集</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>在来種であるヌカエビ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>DNA の抽出</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>遺伝子解析</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>入間川、高麗川、越辺川、都幾川、小畔川の 7 地点で淡水エビを採集し遺伝子解析を行った結果、高麗川上流の 1 地点を除く全ての地点で外来種であるカワリヌマエビ属の淡水エビの侵入が確認され、在来種であるヌマエビの存在は確認されなかった。このことから、埼玉県においてもカワリヌマエビ属の淡水エビの侵入がかなり進んでおり、ヌマエビの生息域を脅かしていることが明らかとなった。一方、高麗川上流域の 1 地点ではヌマエビのみ確認され、上流域には外来種の侵入がまだ進んでいない可能性がある。</p>		
今後の改善点	<p>高麗川には在来種が生息していることを受け、上流から下流までの複数地点で調査を開始している。今後は、高麗川の保全に向け、高麗川ふるさとの会や坂戸市環境政策課などと連携していきたい。また、今後は、環境 DNA を用いた解析法を確立することにより、水を汲むだけで在来種が生息する環境を特定できるようにしていきたい。</p>		
最終助成決定額	199,681円		

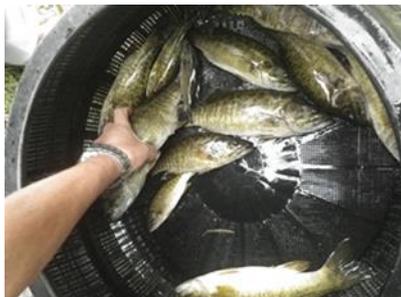
※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況③

団体名	高麗川ふるさとの会	実施日	平成 27 年 4 月～平成 28 年 2 月
代表者	三浦 輝夫	活動場所	坂戸市（高麗川）
タイトル	高麗川の良好な水辺環境の保全活動		
活動目的	高麗川の良好な水辺環境を将来の子孫に引き継いで行くことを目的とし、行政との協働のなかで様々な活動を推進していく。		
活動内容	<p>環境、植生、水生生物・水質、野鳥、学童支援、高麗川塾、広報の 7 分科会を中心として、浅羽ビオトープ周辺の清掃活動(毎月)、植生及び野鳥観察会、小学生を対象とした水の中の生き物調べ、高麗川に関連する写真展、こまがわニュースの発行などを行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>浅羽ビオトープ内水路および高麗川清掃活動</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>浅羽ビオトープ水路他敷地内の草刈り作業</p> </div> </div> <p>しっとりとした語り口のナレーションでふるさとの清流を守る活動の紹介です。 TBS テレビ「風のことば」浅羽ビオトープで検索していただければ You Tube でご覧いただけます。また、高麗川ふるさとの会のHPでもアップしています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>高麗川ふるさとの会 会報 通巻第 37 号 2015 年 6 月 1 日発行 発行責任者 三浦 輝夫 編集責任者 伊田 みちよ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;">  <p>こまがわ 高麗川ふるさとの会 http://komagawakanri.blog.fc2.com/</p> <p>事務局 350-0292 坂戸市千代田 1-1-1 坂戸市役所 冠懸河川課内 電 話 049-283-1331 内線 623 FAX 049-283-1685</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; font-size: small;"> <p style="text-align: center;">武州・入間川プロジェクト助成</p> <p>「こまがわニュース No.07 号」は武州・入間川プロジェクトの助成を活用して発行しています。</p> </div> </div> </div> <p style="text-align: center;">こまがわニュースの巻末</p> <p style="text-align: center;">武州・入間川プロジェクト助成による発行と記載</p>		
活動の成果	<p>荒川上流河川事務所主催の川のクリーン作戦に参加するなど、広い地域交流を通じ河川環境保護の意識啓発を図るとともに、坂戸市主催による環境展等、各種イベントへの参加を通して市内、市外を問わず、多くの市民へ活動への啓発活動を行った。若干ではあるが、活動を通じてふるさとの会に興味を持ち、参加する方も増えている。今後も関係団体との更なる連携を図りながら河川環境保全を行うとともに、写真展や野鳥調査、植生観察会などを通じ、より多くの方が親しみを持てるような活動をこまがわニュースなど通じ、紹介して行きたい。</p>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	143,935円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況④

団体名	駿河台大学	実施日	平成 27 年 7 月～平成 27 年 9 月
代表者	吉田 恒雄	活動場所	飯能市（入間川）
タイトル	入間川を守る！外来種駆除・除去&環境保全		
活動目的	駿河台大学では、これまでの入間川における外来魚駆除で、学内及び地域に対し大きな影響を与えてきた。またこの活動を通じ、入間川における環境問題の多様さを再認識するようになった。さらに深く地域の環境保全を考えるため、今年度はこれまで行ってきたブラックバスの駆除に加え、外来水生生物の除去と河川環境整備を目的に取り組む。		
活動内容	<p>河川生態系について専門的な知識を有する講師を招き、基礎的な知識の定着を図った上で、入間川での外来魚駆除、及び外来水生生物の除去、および河川環境整備を行った。野外での活動は 4 回、活動前には大学教員による事前学習と、事後のレポート指導を実施した。身近な地域で起こる環境問題を考え、また捕獲した外来魚については廃棄処分ではなく、調理して食し、命の尊さを学び、また、駆除、または除去されたものの有効利用についても考えさせることができた。本事業の評価と広報については大学 HP を通じ行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>入間川についての講義風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>笹ぶせの設置</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ブラックバス捕獲の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コグチバス</p> </div> </div>		
活動の成果	今年度は天候に恵まれず、増水や雨天の中での作業や、やむなく内容を変更してプログラムを行わざるを得なかった。一方で、これまでの大学と漁協の連携を耳にした専門家が講義を買って出てくれたため、昨年までよりもさらに充実した内容の講義を受けることができ、学生が得るものが多くあった。活動については、毎回、大学 HP に掲載したところ、これまでも増して多くの反響があった。継続して行うことの重要性が改めて分かった。		
今後の改善点	天候不順のため、のぼり旗を掲げられなかった。		
最終助成決定額	152,000円		

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑤

団体名	狭山市立入間川小学校	実施日	平成 27 年 5 月～平成 28 年 2 月
代表者	千葉 収	活動場所	狭山市（入間川）
タイトル	入間探検隊		
活動目的	本校では総合学習「ゆりの木学習」等で、隣接する入間川について調査や体験する学習を行い、地元の川へ愛着を持つ児童の育成を目指している。		
活動内容	<p>(1)入間川の自然観察：理科や総合の学習では各学年の学習内容に合わせ、入間川河川敷に出かけ、草花の様子、川に生息する生きもの観察や季節探しを行った。</p> <p>(2)自然体験「地引網」：5年生の「ゆりの木学習」では、漁業組合の方々等の協力を得てかつて盛んに行われていた「地引網」について、その歴史や方法の説明を受け、その後実際に体験させていただいた。</p> <p>(3)入間川水族館：自然観察の時に網ですくった魚や地引網で捕獲した魚などを学校の職員室前に設置した「入間川水族館」で飼育し、好評を得た。</p> <p>(4)入間川の環境整備：環境委員会では入間川の水質検査や環境整備（ゴミ拾い）を行っている。また、各学年とも観察の帰りには、河川敷のゴミを拾って帰った。</p> <p>(5)学習発表会：1年間学習してきた内容を保護者や地域の方々を招待して発表した。今年の生活科や総合学習の発表では、入間川や地域環境に関する発表があった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>自然観察</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地引網</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>入間川水族館</p> </div>		
活動の成果	地引網は天候の関係で何度か延期され、気温が低くなり実際に川に入っただけの体験ができなかったが大変貴重な体験ができた。また、学習を通して児童の川の生態について理解を深めさらに探求しようとする意欲が高まった。何より自分の故郷に誇りを持ち、豊かな環境の中に生活できる自分を見つめ直すことができた。		
今後の改善点	本年度年間指導計画の変更で、実施学年を変更し新しい取り組みも多く、なかなか計画どおり実施できなかった。		
最終助成決定額	180,000円		

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑥

団体名	NPO 法人はとやま 環境フォーラム	実施日	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
代表者	愛場 謙嗣	活動場所	鳩山町（唐沢川、鳩川、越辺川）
タイトル	鳩山町における自然環境調査保全活動		
活動目的	鳩山町の北東部は県立丘陵自然公園区域にあるなど自然豊かな山村部にあるが、公園内に大規模集合住宅（鳩山ニュータウン）が造成され、町内に 4 つのゴルフ場ができるなど、相次ぐ開発により自然・生活環境が大きく変化してきている。そうした自然・生活環境の変化を多面的に継続監視（モニタリング）することを通して、多様な生態系の再生とより安全な暮らしの確保に向けての基礎データを蓄積する。また、様々な環境保全活動の体験学習・講演会などを通してそれらの意義への理解を深めてもらうのが活動の目的である。		
活動内容	<p>(1) 残留農薬分析活動 (2) ホトケドジョウ等水生生物調査活動 (3) エコ図書館運営活動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>残留農薬分析採水</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>唐沢川での水生生物調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>エコフェスタでのパネル</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>(1) 残留農薬分析でフェニトロチオン、ヒドロキシイソキサゾール、オキサジクロメホンの 3 成分の残留分析を行い、いずれも「0.001mg/リットル未満」だった。しかし、検量線データからプロピザミド、メタラキシル、ジチオピルなどの農薬成分の微量流出の実態が今年度も確認された。これらの分析データは、今後、鳩山町環境保全条例の改正提案の科学的根拠として大きな役割を果たす。</p> <p>(2) 絶滅危惧種のホトケドジョウの生息が調査により今年度も確認された。また、同じく絶滅危惧種のトウキョウサンショウウオの調査結果から、ある程度生息エリアが判明してきたので、2017 年 2 月からは保護対策を講じるための事前調査を開始した。水槽での飼育も 5 年目となる。それら貴重な水生生物への関心を喚起するために、調査データを広報紙『フォーラム NEWS』に掲載し、エコフェスタ比企イベント会場(5 月 22 日、11 月 7 日)でパネル展示し地域住民に情報提供を行った。</p> <p>(3) こうした活動の作業場所として「エコ図書館」の継続使用は大変役に立っている。</p>		
今後の改善点	「エコ図書館」においては自然環境全般に加えて、特に「3・11」関連図書と、「里山の暮らしの安全」「サンカ」「里山大学」関係の図書の充実を図り、特徴のある「里山の自然と文化資料館」へと発展させていく。さらに、図書の貸し出しもする地域図書館にすべく蔵書のデータベース化を進める。		
最終助成決定額	161,800円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑦

団体名	NPO 法人エンハンスネイチャー 荒川・江川	実施日	平成 27 年 4 月～平成 28 年 1 月
代表者	小川 早枝子	活動場所	上尾市、川島町、川越市 (三ツ又沼ビオトープ)
タイトル	三ツ又 市民参加で在来植物を増やそう		
活動目的	もともと三ツ又沼に自生していたと思われる植物群落復元のため試験を行い、全体としてさらに質の高い生態系の復元を目的とする。		
活動内容	<p>三ツ又沼の生物多様性維持管理及び荒川の草花を育てるプロジェクトのための下記の活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クヌギ広場の外来種植物抜き。 ・⑦⑧⑨ゾーンの外来種植物抜きやトウグワの伐採。 ・⑦⑧⑨ゾーン及び車道土塁で荒川の草花を育てるプロジェクトに参画。 ・三ツ又沼ビオトープで行われる環境教育に参画。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>いづみ高校の生徒達とクワノキ伐採作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>在来植物の種子播き</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>希少種チョウジソウの苗の移植</p> </div>		
活動成果	重点的に外来植物を駆除して在来植物群落化を目指している⑦⑧⑨ゾーンは、相変わらず外来植物に苦しんでいるが、徐々に在来植物が増えている。また、ゾーン⑦⑧は継続的なクワ切り作業で明るい環境へと変化しはじめた。地道な外来種駆除で復元しつつある在来植物のほかに、荒川の草花の種を播いたり、サクラソウトラスト地の希少種などの苗を移植したりして、荒川の原生的な自然を取り戻す作業にも取り組みはじめた。		
今後の改善点	移植した植物が盗掘に合い、ボランティアたちは少なからず気落ちしている。トウグワの駆除もかなりの難問であり、これからも力の限り頑張らなければならない。伐採したトウグワからひこばえが沢山出て、現在ひこばえの少ない伐採方法を模索している。この様に一つ一つ課題を克服しながら、美しい荒川の原生的な景観を取り戻そうと努力している。		
最終助成決定額	161,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑧

団体名	NPO 法人荒川流域ネットワーク	実施日	平成 27 年 7 月～平成 28 年 3 月
代表者	鈴木 勝行	活動場所	嵐山町、日高市（都幾川、高麗川）
タイトル	親子での魚捕りと安全な川遊び体験		
活動目的	入間川水系の各河川の水質が改善され、県による魚道設置事業によりアユの自然遡上環境も整ってきた。そこで、流域の子どもたちに魚捕りの方法や川での安全な遊び方などを教え、カワガキの復活を目指した。		
活動内容	<p>8 月 2 日に都幾川の二瀬橋周辺、8 月 22 日に高麗川の獅子岩橋下流の 2 カ所所で魚捕りイベントを開催した。都幾川会場には、28 名の親子連れの参加者があった。地曳き網を使った魚捕りを 2 回行い、それが終わった後、川の中に沈めたペインティング石を探す川遊びに挑戦してもらった。捕れた魚は、ミニ水族館を開催して紹介し、アユは塩焼きに、その他はフライにして子どもたちに味わってもらった。高麗川でのイベントでは 24 名の参加者があり、地曳き網の後、刺網での魚捕りに挑戦してもらった。捕れた魚は、都幾川と同様に子どもたちに食べてもらった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>会場設置風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>都幾川での地曳網</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>高麗川での地曳網</p> </div>		
活動の成果	昨年度まで、地曳き網漁などの川での漁を体験してもらうことに活動の重点を置いていたが、今年度は子どもたちに魚捕りや川遊びを体験してもらうプログラムを計画し、ライフジャケット着けた川流れや、水中メガネを着けた水中の石探しなどに挑戦してもらった。川の透明度も高い所なので、川の中を見たことのない子どもたちが多いと思うが、楽しそうに取り組んでいたように思う。		
今後の改善点	今年度は、地元の団体を通じた地域に対する広報活動が、不十分だったためか、参加者が少なかった。大人は、ついついアユ捕りに夢中になりがちになるが、大人目線で川遊びをしすぎないように企画を立てることが大切だということ再確認した。		
最終助成決定額	160,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑨

団体名	埼玉県立いずみ高等学校	実施日	平成 27 年 5 月～平成 28 年 2 月
代表者	水石 明彦	活動場所	川島町（三ツ又沼ビオトープ）
タイトル	三ツ又沼ビオトープで地域在来種を守る		
活動目的	いずみ高校・生物サイエンス科の 2 年生で行う「生態学基礎」の授業において、荒川市民環境サポーターの方々と協力し、この三ツ又沼ビオトープに侵入した外来種の駆除を中心とした自然環境保全活動の実施を目的とする。		
活動内容	<p>現在、三ツ又沼ビオトープでは、外来草本植物の繁茂が問題となっている。三ツ又沼ビオトープは、その地域の自然植生回復を目的としているが、国外から持ち込まれた外来草本植物が侵入し、繁茂することにより、日本の在来植物の生息場所が脅かされるという問題を抱えている。そこで、三ツ又沼ビオトープをフィールドに授業の一環としてビオトープ管理実習を行い、オオブタクサやセイタカアワダチソウなどの外来草本植物の駆除や、繁茂しすぎた竹林の管理、自然植生回復のための実験の手伝いなどを行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>クワの伐採の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>セイタカアワダチソウの駆除</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ビオトープでの自然観察</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>マダケの伐採</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>荒川市民環境サポーターの方々の協力を得ることにより、より実践的なビオトープ管理実習が体験でき、実習を通して環境保全活動の大変さや、日本の在来植生を守る活動の重要性が実感を通して理解できるようになった。</p> <p>また、ビオトープでの活動体験を受けて、自然環境保護に対する生徒の意識が高まり、校内での環境保全に関する学習や実験に対して、積極的に取り組むようにもなった。</p>		
今後の改善点	<p>今後は、校内の実験と三ツ又沼ビオトープでの活動がリンクできるように、実習や授業内容の工夫をしていくことが課題となる。</p>		
最終助成決定額	179,996円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成27年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑩

団体名	川島町網打連合会	実施日	平成27年6月～平成27年8月
代表者	加藤 晃	活動場所	川越市、川島町（入間川、越辺川）
タイトル	投網打ち・船乗り体験会		
活動目的	より多くの方に投網文化に親しんでもらうため、船乗り体験、投網打ち体験（陸地）、河川の浅瀬から投網を打つ経験ができる機会を設けて、段階的に投網の技術を上達させていける場を提供し、特に若い世代の人々の投網と魚への関心・意欲を喚起することを目的とした。		
活動内容	<p>毎年5月に川島町内で行われている「ちびっこフェスティバル」会場での船乗り体験、投網打ち体験（陸地）に続き、6月に越辺川で「船乗り体験会」を実施した。8月には河川の浅瀬から投網を打つ経験ができる「投網・地引網体験会」を実施した。「船乗り体験会」では和船の乗船と河川に関する資料の配布を、「投網・地引網体験会」では投網の打ち方の説明、参加者による地引網体験・投網打ち体験、本会スタッフによる捕れた魚等についての説明を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>船乗り体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地引網体験</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>とれた魚を覗く子供たち</p> </div>		
活動の成果	川島町の広報誌の他、5月の「ちびっこフェスティバル」会場で体験会のチラシを配布し、より多くの方たちに知ってもらえるよう努めた。また、初企画の「船乗り体験会」は地域の子供会に声掛けを行っていただき、乗船者数は100名となった。終了後に、まだ残っていた看板を見かけて会場に来た学生もおり、この企画の持つポテンシャルの高さを実感した。「投網・地引網体験会」は今年も前日の雨による水位の上昇で9月は中止となってしまった。今年はホームページを作成して連絡手段としたため、中止連絡はスムーズに行うことができた。実施できた8月には約30名が参加し、大変好評であった。		
今後の改善点	天候に左右される企画のため、投網・地引網が解禁になる限られた期間の中で、いかに多くの場を設定することができるか、スタッフの手配が今後の課題としてあげられる。		
最終助成決定額	160,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑪

団体名	上尾の自然を守る教職員の会	実施日	平成 27 年 4 月～平成 28 年 1 月
代表者	安孫子 繁子	活動場所	上尾市、川越市、川島町 (三ツ又沼ビオトープ)
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境を楽しむ会		
活動目的	荒川の自然環境を学ぶとともに、自然の持つ有用性や自然の楽しさを体験的に学ぶことを目的にしている。		
活動内容	<p>今年度は、三ツ又沼ビオトープや河川敷の植物を利用した竹細工教室や親子自然塾三ツ又と一般対象・高校生対象の自然塾三ツ又を企画した。また、他団体と共同して多くの分野の人々に三ツ又沼の自然を知り、大切にする必要を理解してもらうことに努めてきた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>土手で草つみ・草あそび</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>葦刈り・パン焼き</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>焚火やけむい体験</p> </div>		
活動の成果	<p>三ツ又沼ビオトープの自然を利用した草遊びをパネル展で行った。篠でっぽうを使った遊びを見学者に楽しんでもらった。篠は三ツ又沼ビオトープに多い素材である。適度に減らしていきたい植物で、これを利用した情報発信は従来から少しずつ行ってきた。平成 26 年度は竹細工教室の日程に無理があり、実施できなかったのもので、今年度はパネル展で行った。小学生・中・高校生・大学生を対象にした篠や竹にパンだねを巻き、たき火で焼くパンは好評であった。屋外での活動は、暑さや雨天に左右されやすく開催の判断が難しかった。熱中症に注意したり、雨天の中での開催だったりが参加者にはこれも自然という受け止め方をしてもらいよかった。</p>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	150,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑫

団体名	NPO 法人荒川の自然を守る会	実施日	平成 27 年 4 月～平成 28 年 2 月
代表者	菅間 宏子	活動場所	上尾市、川越市、川島町 (三ツ又沼ビオトープ)
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境管理作業		
活動目的	外来種の駆除やアシ刈りを実施するとともに、三ツ沼ビオトープの定点調査、自然観察会を実施し、多くの人々に保全の必要性を理解していただくことを目標にして活動した。		
活動内容	<p>上尾市平方地区環境フェスティバル参加しての広報活動等により多くの人々に保全の必要性を理解していただいた。自然保護を確実にするために自然を守ると同時に育てる活動として、地域の在来野草の種子からの育苗と移植活動を実施した。</p> <p><主な活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・春の観察会とセイタカアワダチソウ抜きと野草の植え付け ・自然観察と竹林の管理・野草の植え付け ・いきがい愛の会ボランティア作業 ・生きがい大学 0B 召田さんグループ ・オオヨシキリの観察と竹林の管理 セイタカアワダチソウ抜き ・夏の早朝自然観察と管理作業 ・三ツ又沼の植物観察と外来植物退治 ・三ツ又沼ビオトープの植生観察と洪水の後かたづけ ・三ツ又沼ビオトープ 竹林の管理 丸電 ・三ツ又沼ビオトープ カヤネズミの観察とアシ刈り ・三ツ又沼ビオトープ 葦原の自然観察とアシ刈りパタゴニア神田店 ・三ツ又沼ビオトープ 冬こそ頑張ろうクズや外来植物根っこ掘り 		
			
	外来種の真珠切りと 竹林の管理作業	生きがい愛の会の皆さんと 竹林の管理作業	外来植物のナガバ日ギシギシ抜き とユウガギク等の在来植物を植え
活動の成果	在来野草の種まきなどを行うことができ駐車場や沼の近く等の在来野草化が進んだ。協力いただける団体が増え、刈り払い機の部品の消耗が激しくなったが助成のお陰で交換できた。助成機材で作業を効率的に行えた。助成のおかげで保険代の支払いが助かった。		
今後の改善点	機械の使用が増え機械作業の人への保険代がかさみ大変だった。		
最終助成決定額	160,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 27 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑬

団体名	比企郡川島町立出丸小学校	実施日	平成 27 年 7 月～平成 28 年 2 月
代表者	関口 昭彦	活動場所	川島町（三ツ又沼ビオトープ）
タイトル	荒川の自然再生体験		
活動目的	荒川の河川敷にある三ツ又沼ビオトープにおいて、自然観察を行うとともにハンノキの種を採集・育苗し、その苗を再びビオトープに植え戻すことや外来植物を取り除いたところに在来植物を植える自然再生活動を目標としている。		
活動内容	<p>5 年生の総合的な学習の時間（わくわくタイム）の「川島の緑と水（環境を守る）」の学習で「荒川の自然再生」をテーマに取り組んだ。学校近郊の荒川の河川敷にある三ツ又沼ビオトープにおける動植物の生態系の観察やハンノキ（ミドリシジミの繁殖樹）の苗木の植栽と種の採集などの活動を、荒川市民環境サポーターの皆さんの支援をいただきながら定期的に行った。秋から冬にかけて三ツ又沼ビオトープ周辺で採集したハンノキの種を、学校のプランターに植え、芽が出て苗木が育っていくと一本一本を鉢に植え替えて、2 年間育てた。今年度は苗木が育たず、植え戻すことはしなかったが、在来植物のキンミズヒキとチカラシバとイヌタデを種から育て、三ツ又沼ビオトープの外来植物を取り除いたところにキンミズヒキとチカラシバを植えた。豊かな自然再生を願う活動である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>外来植物除去</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>在来植物を植える作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>研究発表会</p> </div> </div> <p>※出丸小学校の玄関脇には、「入間川プロジェクト」ののぼり旗をたてました。</p>		
活動の成果	<p>現地であるいは教室で、荒川市民環境サポーターの方の指導を受けたり、資料で調べたりすることで、児童は環境保護に関する知識・理解を体験に基づき確かなものにしてきている。種から 2 年かけて育てたハンノキの苗を三ツ又沼ビオトープに植栽したり、苗木の周辺の下草を刈ったりという自然再生の本格的な活動を児童は体験し、環境保護意識を高めることができた。</p>		
今後の改善点	<p>苗木を育てるには、長い期間や、水やりや植え替え、肥料の管理など多くの手間をかけなければ、植え戻しができるまで大きくすることはできない。今年度、植え戻すことができなかったのは、発芽率の低さがあるので、発芽前後には特に水分管理等を行う必要を感じている。また、5 年生の総合的な学習の時間の「川島の緑と水（環境を守る）」の学習の成果を発信して、保護者・地域の方に広めていきたい。</p>		
最終助成決定額	98, 220円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成